

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 映像記述のための言語を創出する人工知能の実現

2. 研究代表者： 中島 悠太（大阪大学 D3 センター 教授）

3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本研究課題は、人が言語によって見たもの・ことを説明できることに着目し、深層学習でも「言語」を学習によって創り出し、その「言語」で映像を記述する仕組みによって、真に映像を理解する人工知能を創出することを目指すものである。

フェーズ1では映像と言語を組み合わせた人工知能の実現に向けて、多様な要素技術に関する研究成果が出ている。社会的バイアスに関する評価指標など独自性があり評価できる。トップレベルの国際会議に多数論文を発表しており、国際的に競争力がある。

フェーズ2ではLLMによる影響を考慮しつつ、フェーズ1の研究テーマを発展させる計画であり妥当である。ただ、生成AIで不十分なところをやろうとすると、バイアスの問題や失敗が許されない応用のような難しいところしか残っていないのではないかという懸念がある。中途半端に生成AIの落穂拾いをする感じとならないように、インパクトのある研究に発展させることを期待する。

以上